

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (三次市立八次中学校)

- ① 教科等 外国語科 ② 学年 第3学年
- ③ 単元名 Cell Phones – For or Against
- ④ 本時の目標 ①既習の接続詞やナンバリングなどを用いて、自分の意見を適切に書くことができる。
②必要に応じてメモを取るなどして、相手の発表に関心をもって聞く。
- ⑤ 学習の流れ (5時間目/全8時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 ウォームアップを行う。 ○消しゴムゲーム ○長文ドリル	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを選ぶ際に、根拠となる文に必ず下線を引かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の接続詞やナンバリングなどを用いて、自分の意見を正しく書くことができる。 〔外国語表現の能力〕 (ワークシートの記述) ・必要な情報をメモするなどして、他者の発表に関心をもって聞いている。 〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕 (活動の観察・ワークシートの記述)
2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ナンバリングなどを用いて自分の意見を適切に書くことができる。 必要な情報をメモするなどして、相手の発表に関心をもって聞く。 </div>		
3 意見文のテーマと書き方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語による生徒とのインタラクションによりテーマを示すことで生徒の意欲を喚起する。 ・電子黒板による視覚支援を行いながら、 ー結論先行 ーナンバリングの活用 ー接続詞の用法 ー文章のまとまりの4点への意識を高める。 	
4 意見文の書き方を確認する。		
5 自分の考えを書く。 (個人) ○ワークシートに初稿を書く。 ○他者の原稿を参考にし、初稿を自分で推敲する。		
6 意見文の音読練習をする。		
7 意見文を発表する。 (ペア) ○音読により、パートナーに自分の意見文の内容を伝える。 ○ワークシートにメモを取りながら聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の語彙等を掲載した「帯学習」プリントからヒントとなる表現を見つけるよう促す。 ・個人思考の途中で、必要なポイントに沿って書かれている意見文を、電子黒板で全体に例示する。 ・発表する目的と、リズムやイントネーション等の大切さについて確認することで、音読の際の相手意識を高める。 ・eye-contact や facial expression など非言語コミュニケーションの大切さについて伝え、相手意識をさらに高める。 ・次時で原稿を完成させることを伝え、パートナーの意見文のよさを具体的にメモすることを意識させる。 	
8 本時の振り返りをする。 9 宿題と次時の学習内容を確認する。		

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 読み手や聞き手を意識し、内容が伝わりやすい英文を構成し表現することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 既習事項が表現活動に活用できるよう、「帯活動」として継続的な繰り返し学習を行う。
- 表現に有効な技法や工夫を精選して示し、活用を促す。
- 他者の意見との比較により、自分の考えを練り直す機会を与える。
- 相手意識をもった発表に取り組みせ、要点が伝わりやすい書き方や話し方への意識を高める。